

平和がいちばん

2015年5月15日
第95号

平和で豊かな枚方を
市民みんなでつくる会



5月3日 憲法記念日リレートーク(交野市)

手塚たかひろ再選 松田久子大健闘 新たなスタートです！

市会議員選挙で「市民の会」が擁立した手塚たかひろ議員は再選を果たし、新人候補の松田久子は大健闘しました。二人を支援いただいた皆さん、当選をめざして汗を流し、声を出し、足を運び、知恵をしばっていたいただいた皆さん、一緒に喜び合いたいと思います。

手塚議員の再選はこの4年間の議会と市民運動を結ぶ彼の行動に評価をいただき、もっと頑張れとの励ましの支持だと考えます。新人の松田久子は短期間の準備にもかかわらず、介護福祉の関係者を初めとして「介護する方・される方」達の大きな期待を寄せていただくことができました。

「市民の会」の候補は4年前と比べて得票数を増やすことができました。投票率が下がり、当選ラインが下がったにもかかわらず得票数が増えたことは「会」への期待の大きさと受け止めています。それはますます私たちの責任が重くなってきたことを意味します。

私たちは「言ったこと」はやります。「議員報酬半減・政務活動費ゼロ」は実行し続けます。

ガチンコの議会論議の姿勢を堅持します。「介護福祉」を巡る課題に対して一生懸命勉強し、皆さんの意見に耳を傾け、この問題で悩む方々の期待に応える運動を積み重ねます。この運動は介護に直面している方々だけの問題ではなく、人の尊厳が守り抜かれる社会をみんなできつくりあげることが問われていると考えます。

新しい議会構成になりました。市民のみなさん、当選した議員の“公約”をしっかりと覚えておきましょう。公約は“口約”ではありません。市民との約束は実行してもらわなければなりません。例えば「身を切る改革」が自らの身ではなく「他人の身」ばかり切りまくることになってはいけません。また「未来」が今日を犠牲にするものであってはなりません。「市民の会」は直面する市政の課題に対して真っ向勝負を挑んでいきます。特に美術館建設問題など現市長の独善的な市政運営に対しては、議会での議論と市民運動を結んで、それを許さない市民力を強めます。

さあ、新たなスタートです！

こんにちは 介護福祉の仕事 33年の

松田 久子です

その11回目

4月26日投開票のあった枚方市議会議員選挙で、新人ながら1268票をいただき大健闘した松田久子さん。
彼女に選挙戦の感想と今後の決意を聞きました。



Q1. 初めての選挙、ご苦労様でした。今回の選挙では何を訴えましたか？

第1は「福祉・介護の職場33年の経験を活かします」をメインに訴えました。そして「現場で悩み、困っている方の生の声を枚方市に直接伝え、介護される方も、介護する方も安心して暮らせる町をめざします」と訴えました。介護保険制度になり、介護の問題は行政が行うのではなく民間の介護事業所に丸投げされてしまい、現場の声が行政に届かなくなっていました。まず現場の声を伝え、一緒に悩み解決していく枚方市に変えていかなければなりません。そして、第2に高すぎ

る議員報酬の半減と、問題になっている政務活動費の廃止を訴えました。そこから節約されるお金2億円を介護や子育てといった私たちの生活の身近なところに使うべきだと訴えました。特別養護老人ホームの待機者1000人以上の解消や、低すぎる介護職場の職員の賃金の改善等、そして働く環境が不安定な雇用形態が増える中、保育所の一時預かり制度の充実や入所要件の見直し、待機児の解消こそ、急いで行うべき課題だと訴えました。

Q2. 精力的に動かされたようですが、市民の反応や手ごたえはどうでしたか？

正直、選挙期間中の反響に私自身が一番驚いています。選挙カーから手を振ると、多くの方がそれに応え手を振り返してくれました。それもかなりの率の高さで。また街頭演説に立ち止まって聞いてくれる人や腰かけて聞いている人もいました。高層団地の前では、数人の方がベランダから手を振ってくれました。また公園をヘルパーさんと歩いておられた高齢者が近寄ってこられ「頑張

って。応援します」と握手してくださいました。家の中から出てきて握手して下さる方もおられました。元職場の近くでは、職員の方が出てきて握手、激励してくれたり、窓から手を振ってくれたり、仕事に向かう途上で車から手を振ってくれるなど本当にあちこちで温かな支援を感じることができました。

Q3. 選挙で寄せられた市民みなさんの期待に応えるために、今後の決意をお聞かせください。

残念ながら当選には至りませんでした。短い準備期間にもかかわらず、また46人も多くの候補者の中から、1268名もの方が「松田久子」を選んできたことは、本当にありがたく思っています。特に介護の問題に寄せる思いや期待の大きさを、ひしひしと感じております。この間、地域を回り、介護の問題を抱えている方がいかに多いか、そして介護職場で働いておられる職員の方にもお会いし、介護報酬の切り下げによる厳しい経営状況や人手不足の現状が伝わってきました。まだまだ地域全体に足を運ぶことはできていませんが、この間につながった顔の見える関係を大

切にしなが、介護の問題を中心に勉強会や交流会等が企画できたらと考えています。そして介護の問題について、現場から具体的な声や要求を出していけるように、共に頑張っていきたいと思えます。是非、今後ともよろしくお願ひします。



原発NO



二期目も
精一杯
頑張ります

手塚たかひろ 議員日誌

議員報酬半減
政務活動費ゼロ
美術館建設は中止

手塚たかひろ Facebook ページ <https://www.facebook.com/tezukatahiro>

4月26日 市議会議員選挙で2781票をいただき再選されました

定数32に対し46人が立候補の厳しい選挙。開票当日も、ぎりぎりまで当選が確定せずハラハラドキドキの数時間を過ごした。美術館建設の中止・見直しを求める香里ヶ丘地域の方々、市民の会のスタッフ、近畿各地から応援にかけつけていただいた多くのお力のおかげで再選の原動力だ。

選挙戦では「政務活動費廃止」「議員報酬1100万円の半減」を実行してきたこと、今後、市民の声を背景に条例を作ることで実現できること。節約できる2億円で、待機児解消のための保育所の定員増、1000人以上の待機者がいる特別養護老人ホームの定員増、若者の雇用支援などを訴えた。

また「将来に負担を残す美術館建設中止」、そして美術館問題で明らかになった市民無視の市政運営を変えること、馴れ合いでなく真剣な議論の議会へ変えることを訴え続けた。

政務活動費廃止や議員報酬の半減は「もっと聞かせて欲しい」との問い合わせや、「本当に実行している議員がいることをはじめて知った。応援する」などの声も届いた。政務活動費はテレビの前で泣きまくった前兵庫県会議員の事件で多くの方がおかしいと思われている。私は領収書を公開し、透明度を上げればOKというのではなく、実質的な議員報酬の上乗せだから必要なし、廃止すべきだと明確に言い切った。市民から廃止の声が高まり請願などの運動として取り組みれば条例改正して廃止することは可能だ。廃止へ向けて市民とともに取り組みたい。

「毎年6000万から7000万円の税金の持ち出しはおかしい」「緑を壊すことは許せない」「個人の趣味を市民に押し付けるな」「市民の声を聞こうとしない市長がおかしい」など強調点は人によって異なるが、美術館建設反対の声が選挙戦を通して確実に広がっていることを感じた。選挙後も、見直しをして欲しいとの多くの声が届いている。

選挙戦で美術館建設反対・見直しを訴えた議員は増えた。「茶室のない美術館は要らない。造る」といい続ける寄附者。「茶室は造らせない」と言う市長。どれが本当なのか市民にはわからない杜撰な美術館建設計画への疑問は議員の中にも確実に広がっている。

新しい議員はもとより旧来の議員へも働きかけを強化すれば、議会の態度も変える可能性は高まった。運動を強化したい。

4月27日 香里ヶ丘中央公園でのミーティングに参加 選挙期間中も美術館建設強行を許さない見守り活動は続き、まもなく200日を迎える。

5月3日 憲法記念日のリレートーク 20名を超える枚方・交野・寝屋川市民が共同して、恒例のリレートークを行う。10時半交野市イズミヤ前から市駅前・樟葉駅前・寝屋川市駅前で参加者がそれぞれの思いを短時間訴えチラシを配布する。市民の会は『平和がいちばん』＜憲法記念日特集号＞（手塚たかひろHP <http://www.tezukatahiro.info>）にも掲載を配布。安倍内閣の地球の裏側でも戦争が出来る国づくり、実質的な憲法9条の改悪を許すなど、時には強く、時に諭すような個性あふれる参加者の声が続いた。私は、戦争できる国づくりへ向けてマスコミ報道への政府自民党の介入が露骨に行われ、市民の知る権利を剥奪し世論誘導をおこなっていることへの警戒を強める必要を強調した。

4月27日 4月分議員報酬から226,480円を法務局に供託

特集

DO OUR BEST!

みんなで頑張った選挙運動

ドアを開け放った選挙事務所。たくさんの人が出入りしてくれた。秋田県の雪の“カマクラ”のようだと支援の仲間が言う。そこでは前を通る人に「よったんしえ」と声をかけると、誰もが中に入りお茶を飲んでいくそうだ。「寄っていきませんか」の呼びかけは地域をじんわりとあたたかくしていると思う。(N)

ポスターも選挙公報の原稿もみんなで話し合っていて決めていきました。選挙運動も名前の通り「市民みんなでつくる会」でした。(E)

告示日の前日、香里ヶ丘の慣れない道で宣伝カーをゆっくり走らせていた。後ろから二人の女性が小走りにやってくるのが見える。「パンフレットありますか?」。チラシをそれぞれ2枚ずつ渡す。100mも行かないうちに、今度は前方にバイクの青年が手を挙げて合図をしている。「チラシ下さい、私は宇治なんです」。教訓、宣伝カーはゆっくり走らせよう。(Y)

告示日、用事がありポスター貼りを始めたのは午後4時頃。ぼっかり空いた二人の場所に遅ればせながら貼っていると、通りがかりの人が余りの多さに茫然とした様子で眺めている。そこですかさず二人の紹介をしました。ヘルパーをしている人や、美術館問題を知っていて手塚さんに決めていた人、まだ決めかねている人など、あちこちで五人の方と話ができました。(M)

候補者と並んで駅前で連呼。メガホンをもって大きな声を出すのはいつ以来でしょう? 呼びかけに歩行者から笑顔が返り、バスのお客が手を振って応えてくれました。嬉しかったです。(F)

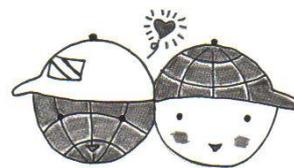
選挙期間中、セリフやゼスチャーが日ごとに上手になっていった候補者。スピーチの強弱や抑揚・迫力、握手のタイミングや握り方等も。ご本人のセンス・努力と共にスタッフ・支援者の協力・指導の賜物なのだろう。なるほど、国会議員選や米国大統領選と同じなのだな、と妙に感心した。(Y)

4年前の思い出が牧野公園のアテлуйの碑と満開の桜だったとすれば、今回のそれは「アラカシのもり」。「現職市議が逮捕」などと夢想していただけに、香里ヶ丘中央公園を直接見て感じたかった。そして、今秋には必ずドングリを拾いに来て木々と話をしてみよう。きっと彼らも語ると思う。「見守り隊のみなさん、ご苦労様。これからも共に生きていこうよ」(Y)

「介護の仕事33年の経験を活かします!」住宅街を選挙カーがゆっくり進んでいくと、行く手に建物から出てきて手を振ってくださる人々を発見。近づくにデイサービス施設でした。車を降りてご挨拶して握手。介護現場で頑張っておられる方々の期待をひしひし感じました。(I)

平和で豊かな枚方を市民みんなでつくる会

共同代表 家高 憲三 (元教育長)
黒田 薫 (平和都市枚方を考える市民の会)
鈴木めぐみ (親と子のリズム遊び講師)
奥村 秀二 (弁護士)
おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)
事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)



塔本賢一さん作

〒573-1197
枚方市禁野本町
1-5-15-106
市民の広場“ひこばえ”

TEL&Fax

072-849-1545

毎月の配布を希望される方、または配布を希望されない方はお手数ですが連絡ください